

2月1日午前 2科4科入試 **算数****【出題の狙い】**

大問1は計算問題を5題出題しています。粘り強く計算する問題と、工夫して計算する問題があります。そこで、計算能力の正確さ・速さ・忍耐力をみます。大問2は基礎的な知識と理解力をみる文章問題を5題出題しています。小学校や塾で習う各項目の基本部分が定着しているかをみます。大問3～6は様々な文章問題から基礎的な計算力を土台として思考力・判断力・表現力をみる問題を出題しています。

【結果講評】

大問1の正答率は、(1)94.6%、(2)80.0%、(3)61.0%、(4)79.0%、(5)84.4%です。(3)の単位変換を行う問題の正答率がやや低かったです。計算問題の演習を十分積んでいる受験生ならば、十分対応できます。

大問2の正答率は、(1)35.3%、(2)70.2%、(3)54.2%、(4)85.4%、(5)38.3%です。(1)の縮尺を問う問題、(5)の場合の数の問題の正答率が低かったです。

大問3の正答率は、(1)89.5%、(2)88.5%、(3)64.4%です。給水における時間と水面の高さの関係を問う問題です。(1)と(2)は全体的に出来が良かったのですが、(3)では大きく差がつかしました。

大問4の正答率は、(1)7.1%、(2)1.7%です。3点の動点に関する問題で、結果的には差がつかせませんでした。難度の高い問題はいったん後回しにして、最後にチャレンジしてほしいです。

大問5の正答率は、(1)88.5%、(2)79.3%です。規則性に関する問題です。全体的に出来がよく、ミスをしてしまうと差がついてしまう問題でした。易しい問題ほど確実性が求められ、ミスは致命的です。

大問6の正答率は、(1)は46.8%。(2)(3)は記述式で部分点を含めて得点した受験生の割合は61.0%です。図形のまわりをすべることなく転がる円に関する問題で、本校の入試で過去に類題が出題されています。(1)の典型問題で大きく差がついています。(2)(3)は記述式問題なので、正しく問題を理解し、式や言葉、図などを用いて答えにたどり着く道筋を表現すれば、答えが間違っている場合でも部分点を与えています。最後まで粘り強く取り組みましょう。

【差が付いた問題】

全体の正答率60%以上の受験生と60%未満の受験生の答案に対して、各問の正答率をそれぞれ比較して40%以上の差がついた問題は、大問2の(3)(5)、大問3の(3)、大問6の(1)です。文章、グラフ、図形などで与えられた各種の条件を正しく理解した上で、解き進める問題でした。

【次年度以降の受験生に向けて：指導される先生へ】

基本・基礎が確実に定着している受験生が実力を発揮できるような入試問題を作成しています。日々地道に計算練習をした上で、単純に解法を覚えるのではなく、なぜこの解き方になるのかを自問自答しながら理解していく姿勢を身につけるようにして下さい。また、昨今の教育改革に伴い、中学入試問題に限らず様々な試験において思考力・判断力・表現力が問われる問題がこれから益々増えていくと予想しています。本校としても、文章・グラフ・表から情報を正確に把握して判断をしなければ解けない問題、読み取れた情報を表現する問題等を出題していきます。

2月1日午後 特待入試 算数

【出題の狙い】

大問1は計算問題を5題出題しています。粘り強く計算する問題と、工夫して計算する問題があります。そこで、計算能力の正確さ・速さ・忍耐力をみます。大問2は基礎的な知識と理解力をみる文章問題を5題出題しています。小学校や塾で習う各項目の基本部分が定着しているかをみます。大問3～6は様々な文章問題から基礎的な計算力を土台として思考力・判断力・表現力をみる問題を出題しています。

【結果講評】

大問1の正答率は、(1)97.6%、(2)78.0%、(3)88.6%、(4)77.2%、(5)93.5%です。(2)と(4)の正答率がやや低かったですが、日頃の計算練習の成果がよく表れていて、出来も良かったと思います。

大問2の正答率は、(1)38.0%、(2)44.6%、(3)43.5%、(4)35.9%、(5)52.7%です。昨年度の入試のように、正答率が極端に低い問題は姿を消しましたが、一方で得点しやすい問題もありませんでした。解けない問題は深入りせず、解ける問題から取り組むことが大切です。

大問3の正答率は、(1)47.3%、(2)32.6%です。速さに関する問題です。きちんと状況を把握することが求められます。(2)で大きな差がついてますが、典型的な(1)を確実に得点できているかがポイントです。

大問4の正答率は、(1)78.5%、(2)15.2%です。食塩水に関する問題です。(2)は正答率が低かったですが、(1)の誘導の意味をきちんと理解し、(1)の結果を(2)に応用する問題です。

大問5の正答率は、(1)46.5%、(2)49.2%、(3)12.2%です。五稜郭を題材にした平面図形に関する問題です。円の性質をきちんと理解すると共に、線対称に関して理解を深めてほしい。

大問6の正答率は、(1)は72.3%。(2)(3)は記述式で部分点を含めて得点した受験生の割合は29.1%です。場合の数に関する問題です。場合の数を丁寧に数え上げる姿勢が大切です。(1)はよくできています。(2)(3)は記述式問題なので、正しく問題を理解し、式や言葉、図などを用いて答えにたどり着く道筋を表現すれば、答えが間違っても部分点を与えています。最後まで粘り強く取り組みましょう。

【差が付いた問題】

全体の正答率60%以上の受験生と60%未満の受験生の答案に対して、各問の正答率をそれぞれ比較して40%以上の差がついた問題は、大問2の(1)(2)(3)(5)、大問3の(2)です。いずれも落ち着いて解けば正解できる問題であり、ミスなく解くことと同時に、時間配分をあらかじめ考えておくことが大切です。

【次年度以降の受験生に向けて：指導される先生へ】

基本・基礎が確実に定着している受験生が実力を発揮できるような入試問題を作成しています。日々地道に計算練習をした上で、単純に解法を覚えるのではなくなぜこの解き方になるのかを自問自答しながら理解していく姿勢を身につけるようにして下さい。また、昨今の教育改革に伴い、中学入試問題に限らず様々な試験において思考力・判断力・表現力が問われる問題がこれから益々増えていくと予想しています。本校としても、文章・グラフ・表から情報を正確に把握して判断をしなければ解けない問題、読み取れた情報を表現する問題等を出題していきます。